

施設での透明トンネルとマルチを利用した 太陽熱消毒によるスターチス^{いちょう}萎凋細菌病の防除

農業試験場

[研究のねらい]

スターチス栽培において、スターチス萎凋細菌病は恒常的に発生し、安定生産の障害となっています。そこで、畝立て後に二重被覆を行う太陽熱土壌消毒による防除技術を確立します。

[研究の成果]

- ① 作付畝に5mm全面散水後、土壌体積含水率30%を目標に注水し、透明ポリマルチとビニルフィルムトンネルにより2重被覆（以降2重被覆畝処理）します。その後施設を閉め切り7月下旬より1か月間太陽熱消毒を行います（図1、写真1）。
- ② 前年被害株率が10%以下のほ場では2重被覆畝処理を行うと被害がなくなります。慣行法は9月下旬より発病し、マルチのみの1重被覆畝処理では、初発はやや遅かったものの、その後の発病は慣行と変わらなかったことから、2重被覆畝処理が有効です（図2）。

[研究の活用面・留意点]

- ① ほ場全体を消毒するために、ハウスの角まで2重被覆を行います。
- ② 前年被害株率が50%以上の多発ほ場では効果が劣るので、防根シートを埋設して、根を汚染された下層まで伸長させない等の対策が必要です。

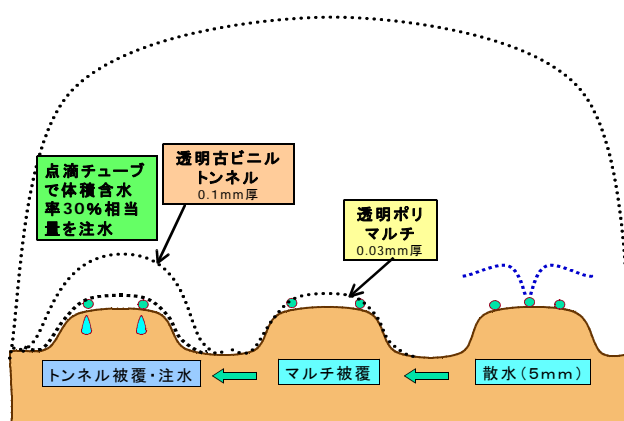


図1

2重被覆畝処理による太陽熱消毒の手順



写真1 太陽熱消毒の処理状況

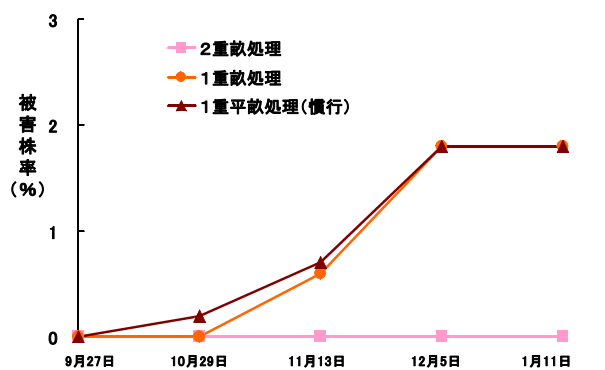


図2 スターチス萎凋細菌病の被害推移（2007年）

※試験ほ場は、2006年の被害株率が10%以下の中発生ほ場

（問い合わせ先TEL：0736-64-2300）